

<医学部の紹介>

医学部は6年制であり、1～2年で教養科目、3年で基礎医学、4年生で臨床医学、5～6年生で臨床実習というものが典型です。しかし最近では、低学年から様々な施設での現場体験学習やコミュニケーション能力の育成等を通じて医療に触れることが多くなっています。近年、医療者の倫理観・道徳的責任感が問われることも少なくないため、このように低学年から「医療者として必要なものは何なのか」を感じてもらい講義が増えています。また医学部での6年間の課程を修了したからといってすぐに医者になれるわけではありません。卒業後、医師国家試験を合格し、2年以上の臨床研修を行うことが義務付けられています。

<シグマ講師による学部紹介 箕面駅前校 高岡先生>

1.所属学部・学科:医学部 医学科

2.専攻:医学

3.専攻についての詳細:

医学部というと「難しそう」「大変そう」というイメージを皆さん、お持ちではないでしょうか。確かに医学に携わるために勉強については気が抜けませんが、今回はより具体的に医学部の様子や授業のおもしろさについてお伝えしたいと思います。

医学部の特徴の1つは、通常は4年間の大学教育の期間が6年間であるということです。医歯薬系の学部(医学部・歯学部・薬学部)は覚える量の多さや、カリキュラムの中に病院や薬局での実習が入っていることなどから、勉強する年数が長くなっています。

ほかの特徴として、医学部は旧帝国大学以外の多くの大学で、キャンパスが別になっているということです。また、部活動も他の学部とは別にあることが多く、活動にも熱心です。医学部といえば、一般の方々は勉強ばかりしているインテリのようなイメージを持っている人が多いようですが、実際はわざわざ他学部とは別にクラブをつくって活動しているくらいで、皆大会などにむけてとても頑張っています。また、はじめのうちは皆普通にアルバイトなどもしているので、「キャンパスが別だから」「医学部だから」といった理由で交友関係が狭くなったり、地獄のような勉強の日々をおくったりしているわけではありません。

次に私の通っている大学の6年間のカリキュラムを大まかに説明します。1・2回生では一般教養の授業を受けながら医学の基礎を学んでいきます。またこの時期に早期病院実習も行います。3・4回生では基本的に病院には行かず、1・2回生よりもっと細かい医学の知識を学んでいきます。そして5・6回生になると実際に病院の先生に付いて、現場で医療を学ぶ、クリニカル・クラークシップという授業があります。指導医・研修医とともに、特定の患者さんと話しをしたり、病気の経過を見るために聴診器をあてたりといったことを行うのですが、患者さんへの薬品の投与量についても提案をすることができます。実際の医療行為は免許が無いのでできないのですが、患者さんとの

接し方や治療計画の立て方など、現場でしか感じることでできない事が多く、大変勉強になるものです。

医学部は勉強が大変で、時代とともに医療も進歩し、それに伴って勉強も欠かせません。「収入がよいから」という理由では続けていけないかもしれません。しかし、「人の世話をするのが好きだ」「人のために働いてその人の喜ぶ顔をみるのが好きだ」というような、常に「人のために何かをするのが好きだ」という方におすすめします。

4.卒業後の進路

ほぼ全ての人が、卒業したのちに国家資格を取得し、どこかの病院に勤めたり、病院を継いだり、研究医になるなどして医療に従事することになります。

5.取得可能な資格

医学部を卒業(または卒業見込み)し、医師国家試験に合格すれば、医師免許がとれます。しかし、試験合格後には、二年以上大学の医学部もしくは大学附置の研究所の附属施設である病院又は厚生労働大臣の指定する病院において、臨床研修を行なう必要があります。